

76
1185
3

長崎聞見錄卷之三

目錄

唐人館

夏草冬虫

羊角人參

交趾肉桂

浪膏

橄欖膏

何首烏

斑紋花

新春賀札

鳳凰城

玉人參

交趾陳皮

茉莉白

茶膏

千里茶

天南星



象山貝母

木尻

唐斑猫

石燕

葵窩菜

桑石

寶石

石龍子

丁香皮

求肥

禹餘糧

馬勃

和斑猫

木賊石

黑曜石

海帆

海牛

蛤蚧

薑筍乾

明月餅

画入雲片膏

唐人夜字炮

墨盒

鼻毛刺

唐人火箸

画硯

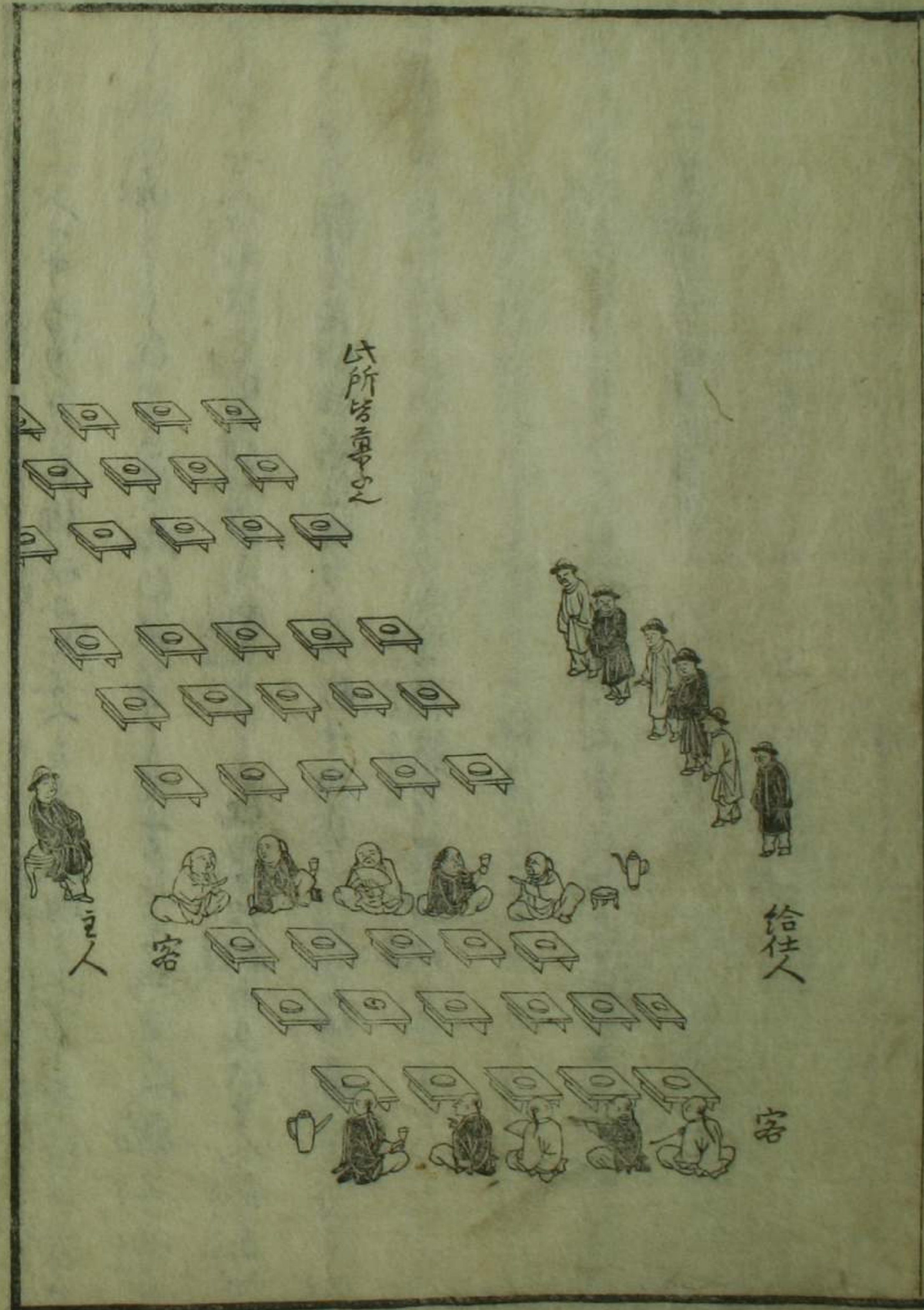
唐人剃刀

菜刀之圖

長崎聞見録卷之三

唐人館

唐人館と東山と山ととあり。西南の方より出入の門あり。それ三方へさびさびと
 二ま小園とあり。その用の老い猪りよ入るにわらわ。所を求ては館内へ入委しく
 又あり。菓子茶室茶室の店あり。又あり。唐人館と云くはわらわ。それ
 門たぐよ。さびさびと顔勝る。又あり。一日船自港の音が客館よりあり。さびさびと
 の音あり。其音は皆唐乃焼物にて。その焼物の音をよめる唐の日本にて
 製するも此の音なり。心を教むるはさびさびと音と似る。此の音は百味の音なり。さびさびと
 音はたぐよ。さびさびと音はさびさびと音なり。其音はさびさびと音なり。さびさびと音は
 音はたぐよ。さびさびと音はさびさびと音なり。其音はさびさびと音なり。さびさびと音は
 音はたぐよ。さびさびと音はさびさびと音なり。其音はさびさびと音なり。さびさびと音は



は所皆重なり

主人

客

給侍人

客

新春賀礼

唐人餛飩子。役人くくの倍所あり。新長の夜。は倍所くく。年賀の礼と
おさうたる。そま左のよくくあり

新賀禮

王春波
孟涵九拜

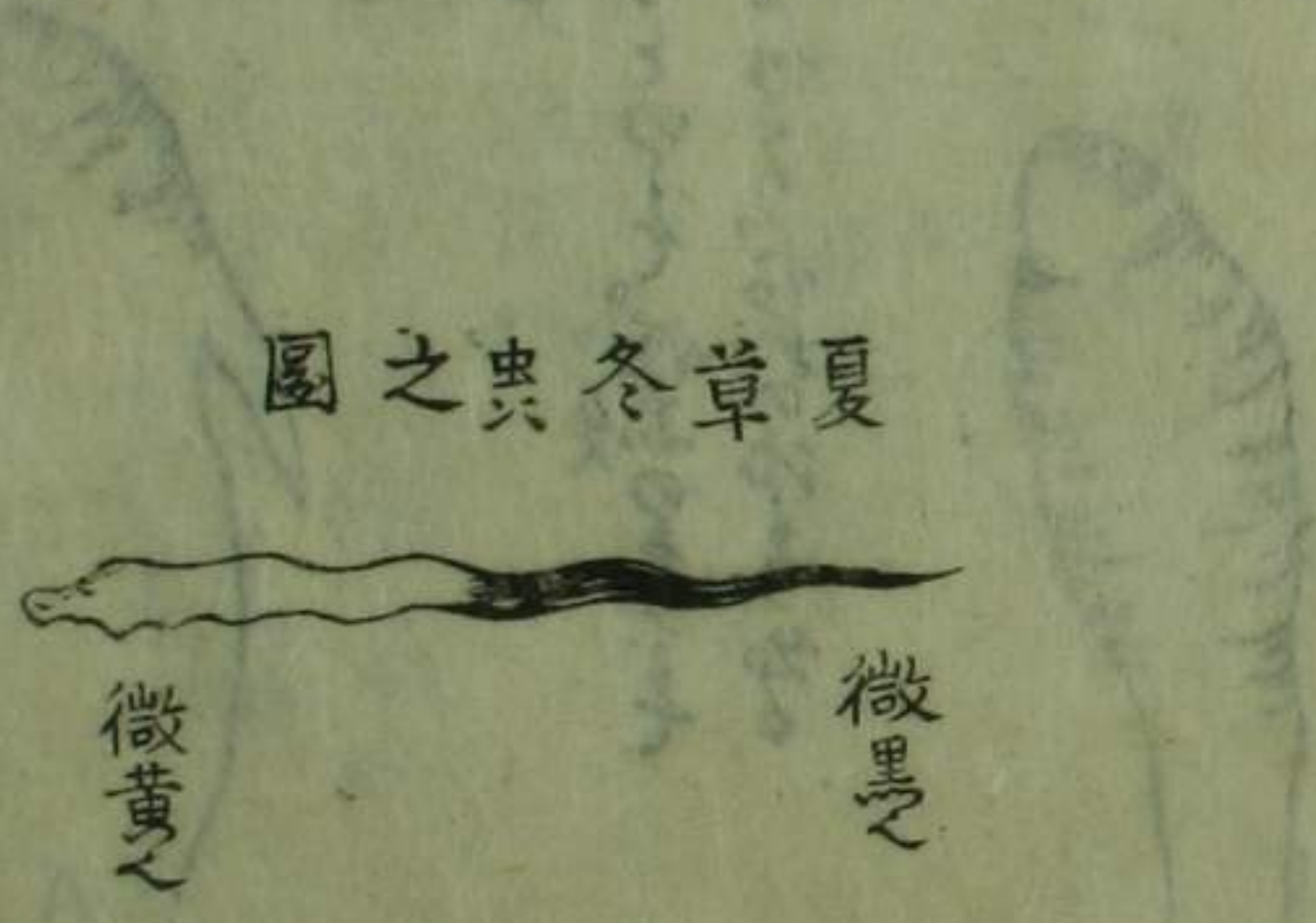
紅箋を用ゆり

夏草冬虫

夏草冬虫の草は唐人の拾遺草に記して腎薬なりとて唐人の好む草なりとて
 ことのあらむもけふの人のあらざるものこそ價を高く同じくするものなる人
 りくみかゆは薬より本草を解する書に一向に入るものなりも効能など
 なるもりたるもの予ふ書に隠業説とて酒類の作して種々の書と名を
 けふのあらむ今たよる本草を校して冬後酒定今も唐の人好む草なりと
 ともども後書に夏草冬虫とて

昔有友人自遠來餉予一物名曰夏草冬虫出陝西邊地在夏
 則爲草在冬則爲蟲故以是名焉浸酒服之可以却病延年余
 所見時僅草根之枯者然前後截形狀顏色各別半青者僅作

草形半黑者畧粗大具有蠕蠕欲動之意不見傳記書之以俟
 後考云



夏草冬虫之圖

鳳凰珠

鳳凰珠。人參の根に形似する。龍頭山あり。その白き
層を人參之け山の白くを。此方上層を人參次也



羊角人參

人參も。老人の持液るとのそ。極品の参を
肉中の微して。那拍は似たり。何れの地よりある
こと。知らざるあり



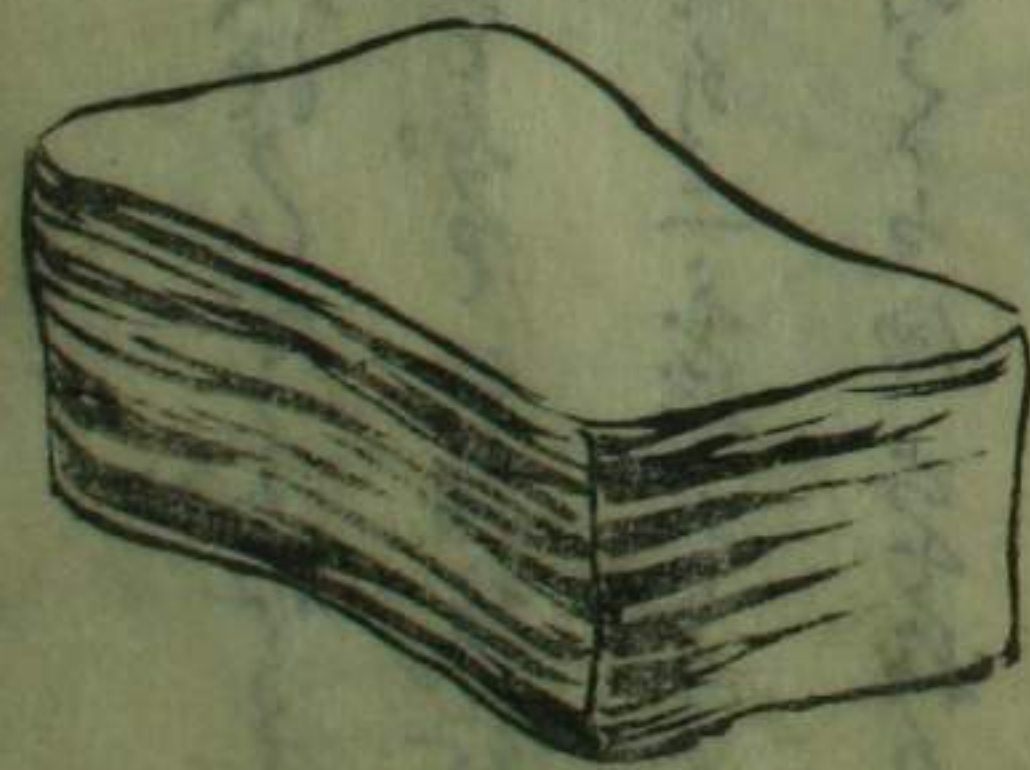
玉人參

玉人參。其の根丸の如く。
黄の微して。其の層を
厚く長く。羊角人參に
層固く似たり。極品の人參
より。其の持液ると。若くは
液りたるもの稀あり



交趾肉桂

肉桂と名をよつて。層を細く。其の
見ると中に。湯の煮入張て。糊
封あり。け中をそと。そり有
る百回ほどすり

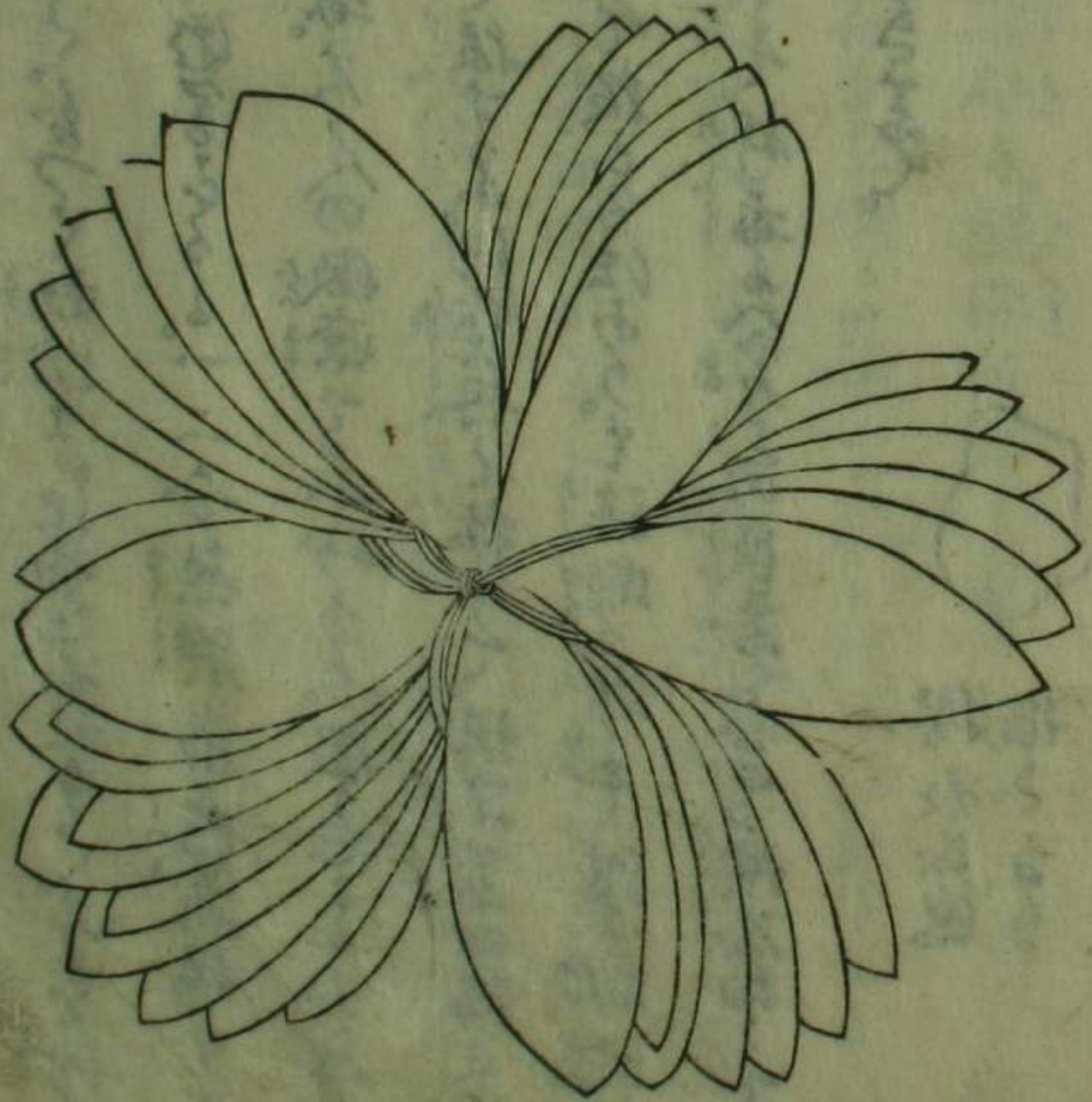


すり
ゆ

交趾陳皮

交趾の陳皮也。らんひれ好味なり。唐人はらんひれを好む。其割れは
 つく急るや。皮を剥ぎて割る。厚く白肉を去り。或は指重。紅白の積糸を
 十文字。指糸をくくるものあり。其價を斤二之指糸もするもの。唐は小
 と。王候大人の用也。極上の品はらんひれをくくる。價を指糸もするもの
 香味甚る者。尋常の品はらんひれをくくる。陳皮とて極上の品あり。其味
 も日本香葉のものと似る。唐人はらんひれを好む。其味はらんひれの遠ひなるもの
 あり。らんひれをくくるものあり。

交趾陳皮之圖



漢名朱橘

和名ベニカラジ

製しするものなり。魚とくほごくのたを解と唐人まぐ持とるなり
長山月見金も製しとるなり

橄欖膏



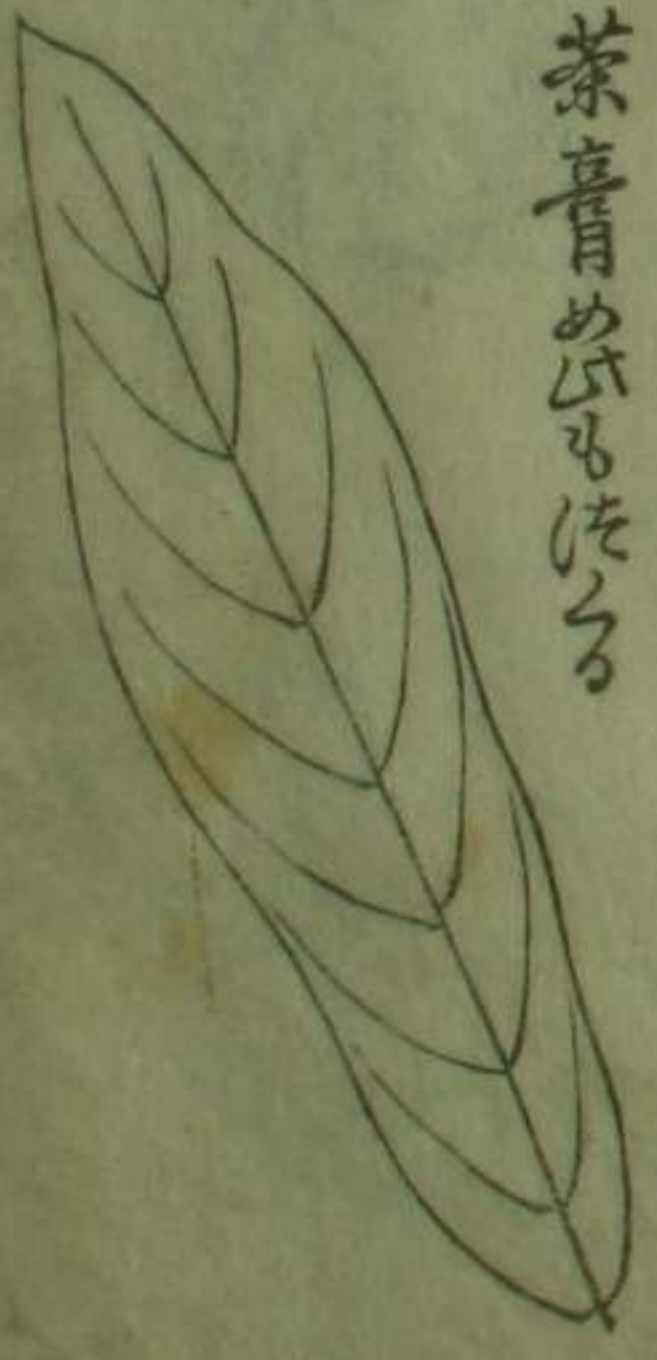
唐人持料の何首烏

茶膏

茶膏を第一製す
頭痛又ほのほるどふ後
するまのり。そむれを桂
くあり。せむとよても
製すれども唐人の持る
るるるるる



茶膏めむはる



子星茶

子星茶。その形強丸大なり。湯とて飲する
物。其味よく胸中をさへり。又その
と清く食ふ。其味よく。梅り。中々
懐中す。其味よく。



斑枝花

本條より。二種
あり。一は樹に似たり。
一は石に似たり。樹と
二は刻する。馬より。肉
一俵あり。



天南星

唐人お料の



名山貝母

唐人お料の
白く。雪と似たり。
大なる。其味よく。
ア。ア。ア。ア。ア。



唐馬雄糧

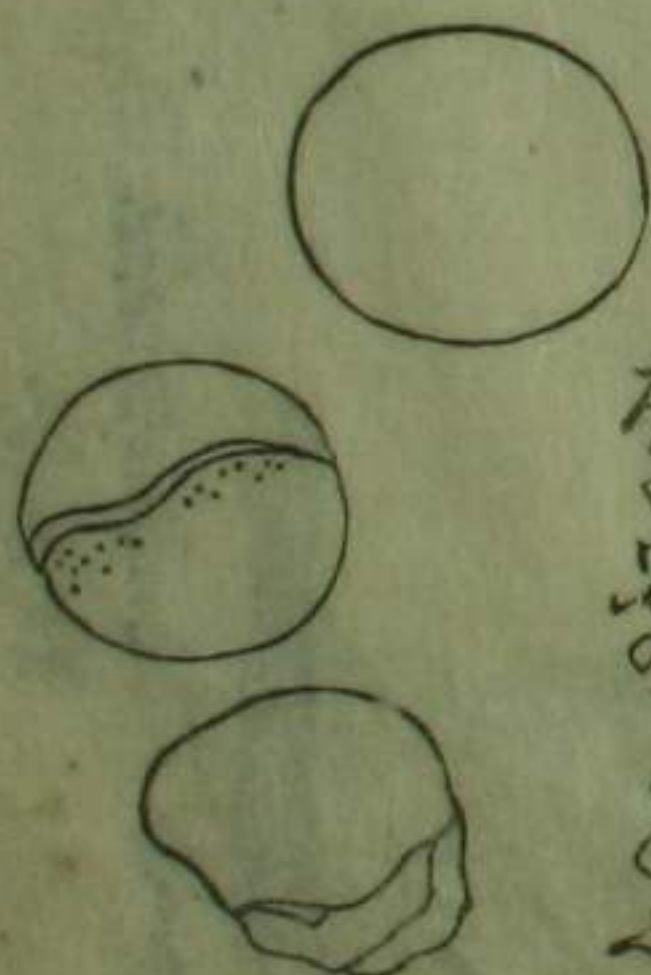
外面微黒く
内裏微赤く



俗名 イニナダニゴ
又名
ハツタイイニ

馬勃 和名 マブタ

俗名を牛王。其味よく。
大なる。其味よく。



本丸

その味よく。其味よく。



唐斑猫
とび



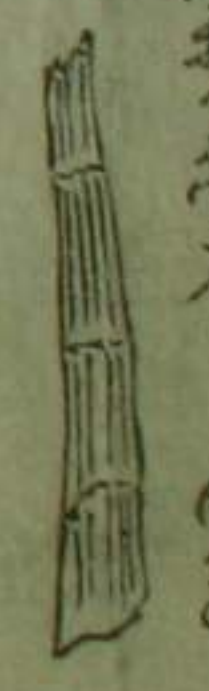
和斑猫
俗名
とび



石莖
とび



木鐵石
とび



白とび

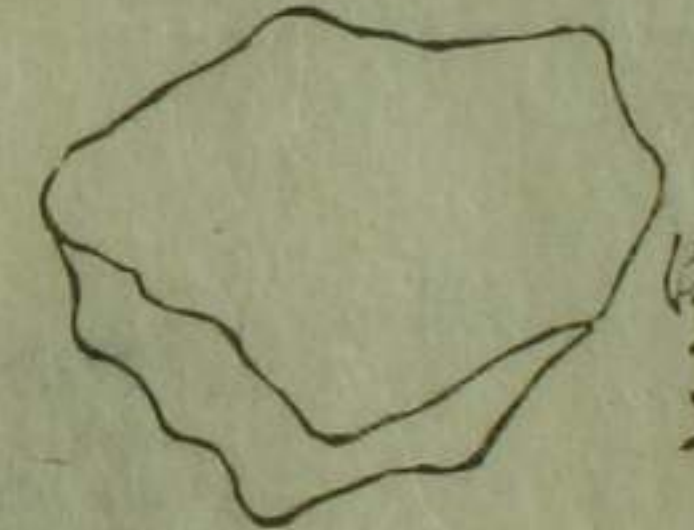
落窩菜

俗名
エニス

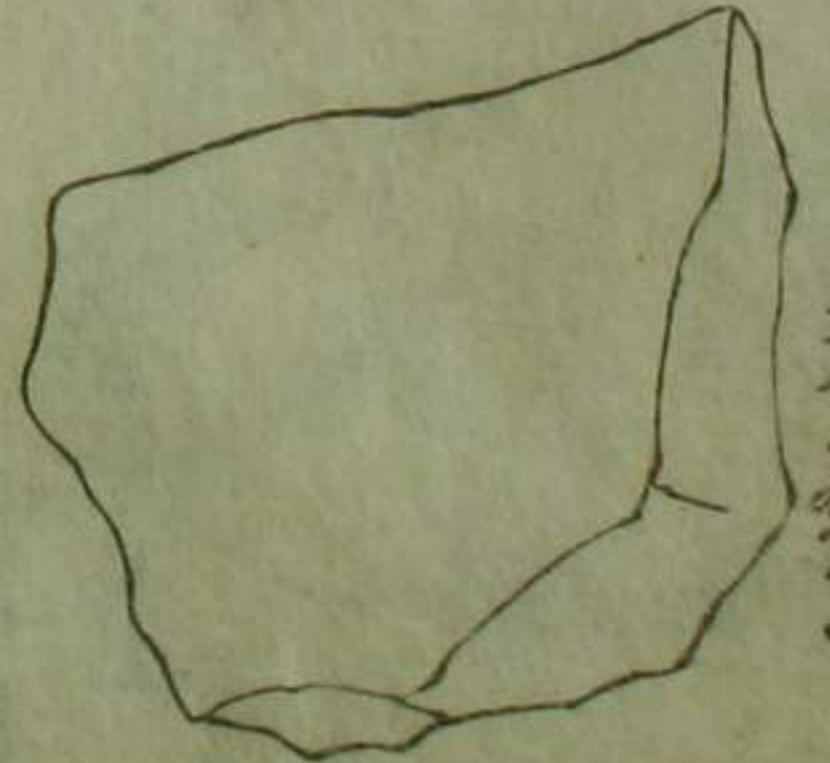
唐人洞法して。實は海人の
海と申す。有海魚の卵の
ありし云。



漢名烏石
黒曜石
とび

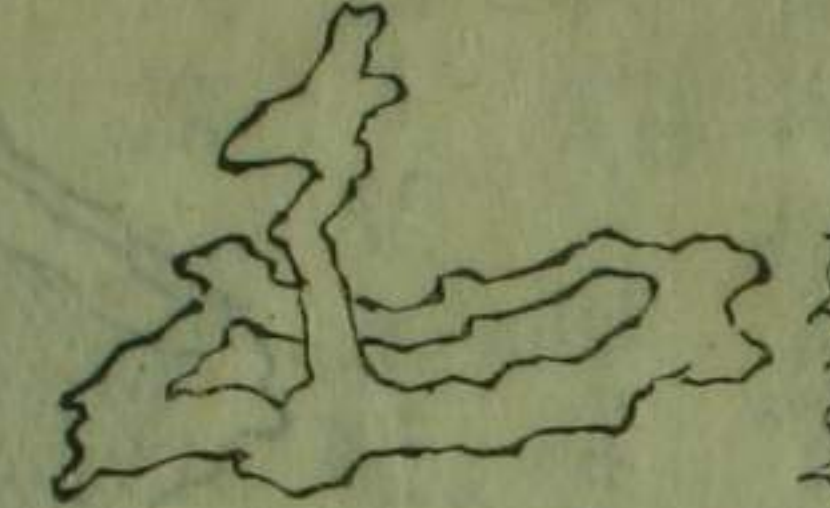


三桑石
ユゲとび



海白膠と
命と造る薬
ありし云
とび

海帆
漢名鐵樹
とび



寶石
ルリとび



海牛
とび



長崎開見録

石籠子
和名トカテ



蛤蜊

丁香皮

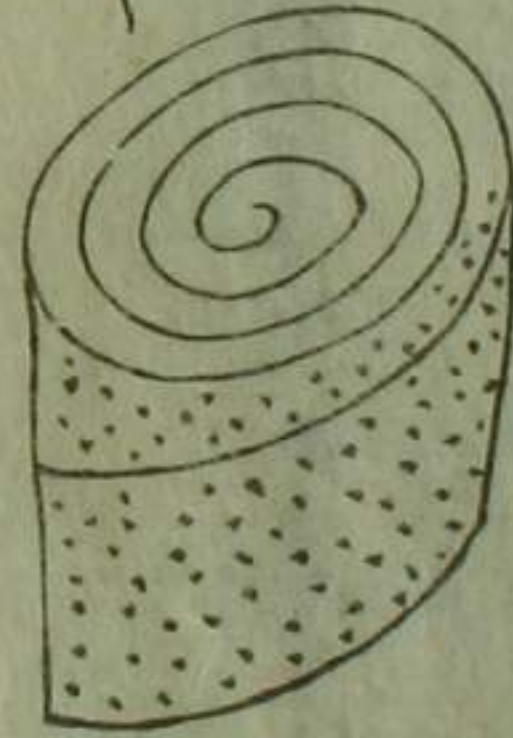
丁香皮ハ肉極小細く皮を剥き取り。その皮を寸寸取り。寸寸みみりと
 けり。是を紙割の油をまみり香気あり。過乾しり出るとのまみり。いま
 とたる紙を皆口紙とく。を紙にまみり。そのまみりのまみり。鼻紙とま
 ざりしへ。深山よりけり。これをく。け丁香皮など。一向紙
 とまみり。その効丁香皮とく。そのまみり。鼻紙とま
 とまみり。その効丁香皮とく。そのまみり。鼻紙とま

丁香皮の屑



赤肥

赤肥を。將糖砂糖膠佐。於麻油と
かし加ふ。製し。るものにて。幅
その。長二尺。厚二寸。作す。於麻
と付。て。法。して。の。粘。り
ると。ぬ。り。用。や。付。る。よ。は。ひ。延
て。る。あり



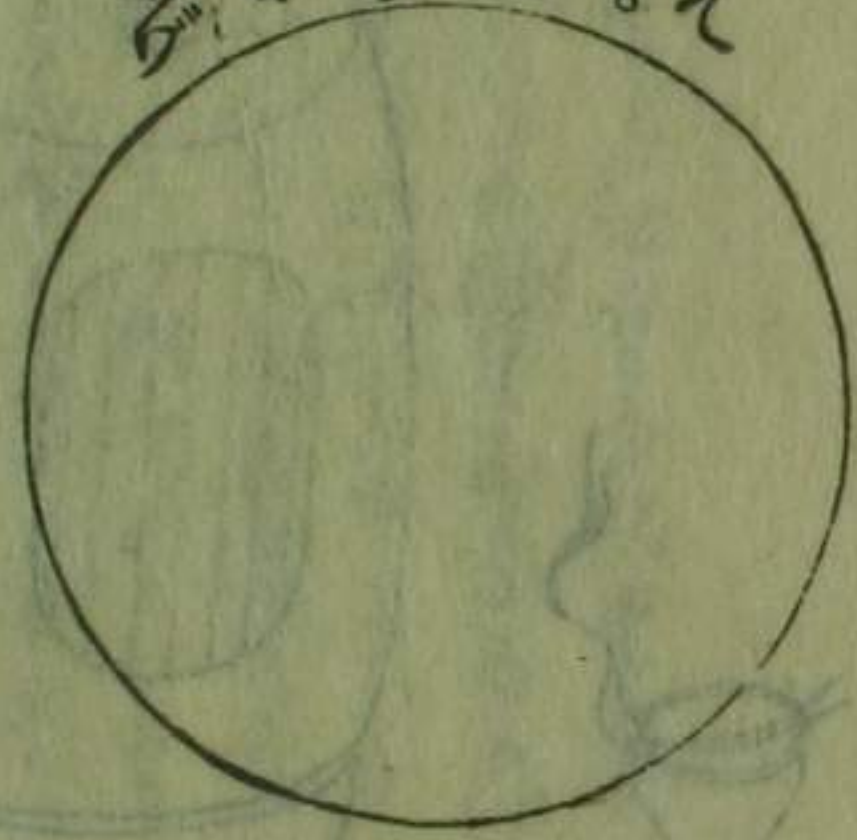
茗荷乾

茗荷乾を。茗荷の芽を。ぬ。り。法。に
法。乾。し。る。もの。にて。青。味。あり。
食。料。と。食。た。もの。



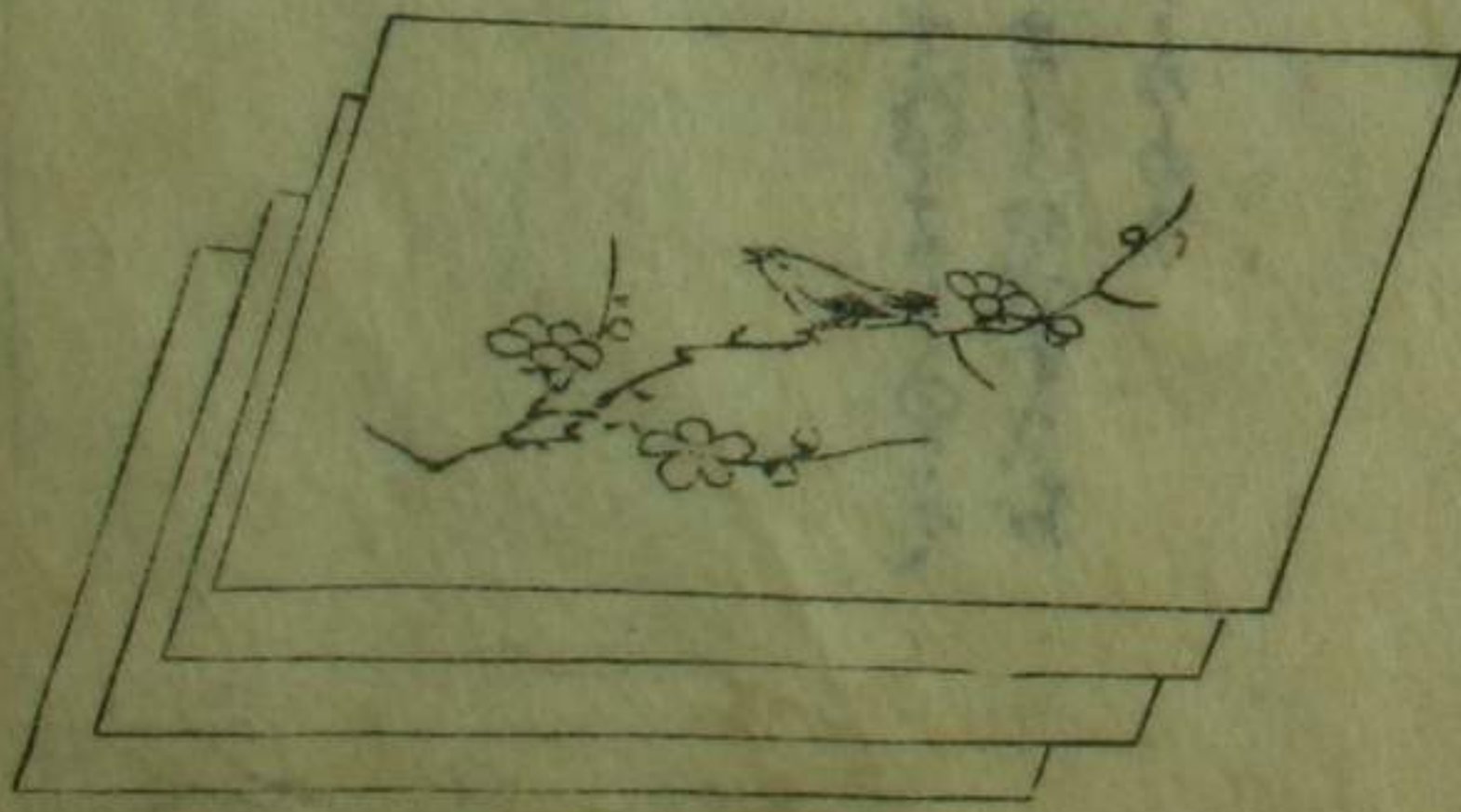
明月餅

明月餅を。餅。粉。を
製。し。る。もの。にて。
餅。粉。と。糖。と。入
ふ。の。法。にて。製。す。
もの。又。糖。粉。を
製。し。る。もの。にて。
の。もの。あり



画入雲片膏

画入雲片膏を。膏。を
茶。の。粉。と。製。し。る
もの。切。り。入。り。の。画
あり

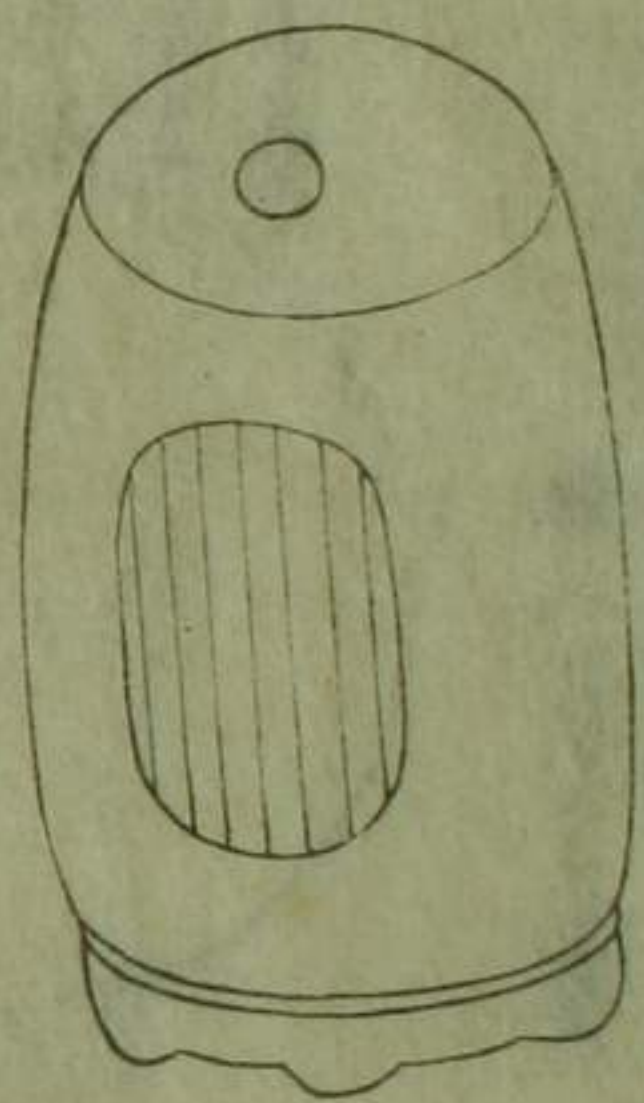


唐人火箸



高きそとんざり

唐人板子地



陶器として作るものにて
煙が煙出りの穴ありお
りぬりぬり

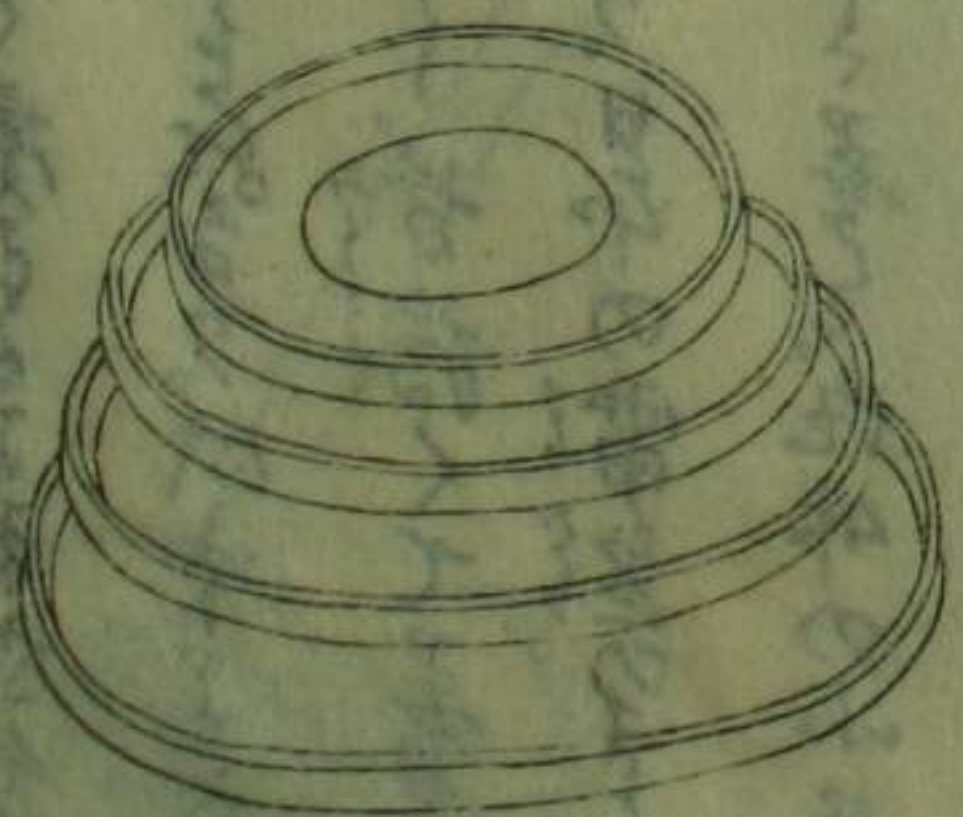


器位とてなるもの

画硯

は硯を陶器として作りしものなり。その表は
ま中よりくぼみあり。水溜りあり。その表は
その裏よりくぼみあり。水溜りあり。その表は
なり。画の器具と和す。其表は角
ゆ画具和して内よりあり。その中より
を中よりくぼみあり。水溜りあり。その表は
あり。その裏よりくぼみあり。水溜りあり。その表は
画の器具と和す。其表は角

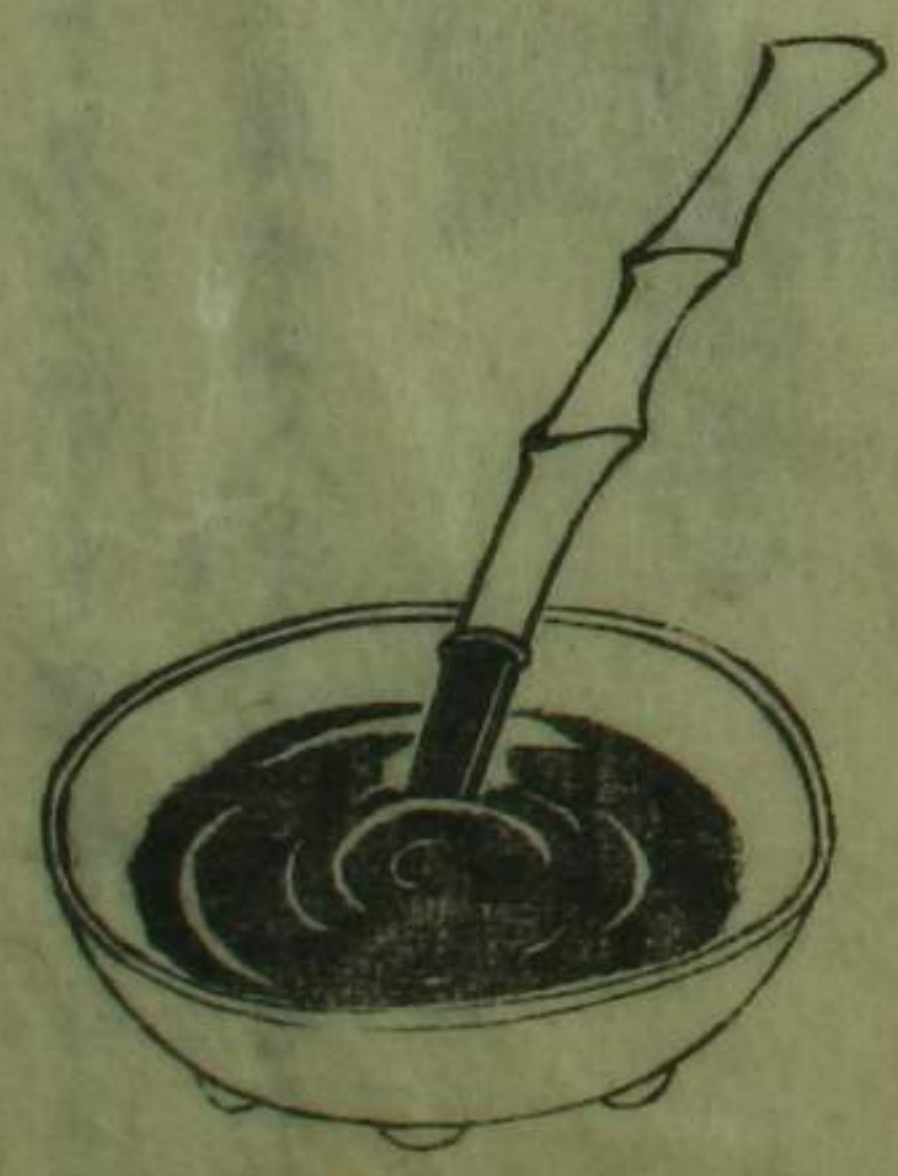
画硯之図



墨盆かくがえ

墨盆は大字の字に似書きする時、墨を以てよく磨く。用由盆にその墨を
 置く。より陶器を以てせしむ。作らざるものあり。此中より灰塵を以て
 入。傍にふりゆく。その湯を以て墨を磨く。昔は磨くて墨を以てせしむ
 多く。此盆はふりゆく。又一種の墨盆あり。日本の雷を以てつく。墨を以て
 筋を以て陶器あり。此盆は灰を以て入。此盆を以て。此作の小にり。此盆を
 以て。是を以てん。以てて。此盆を以てせしむ。何やとて。此盆を以てせしむ。

墨盆



唐人剃刀

唐人髪そりる。そ剃刀あり。その形も唐人の造り。其の形も唐の造り。其の形も唐の造り。其の形も唐の造り。其の形も唐の造り。

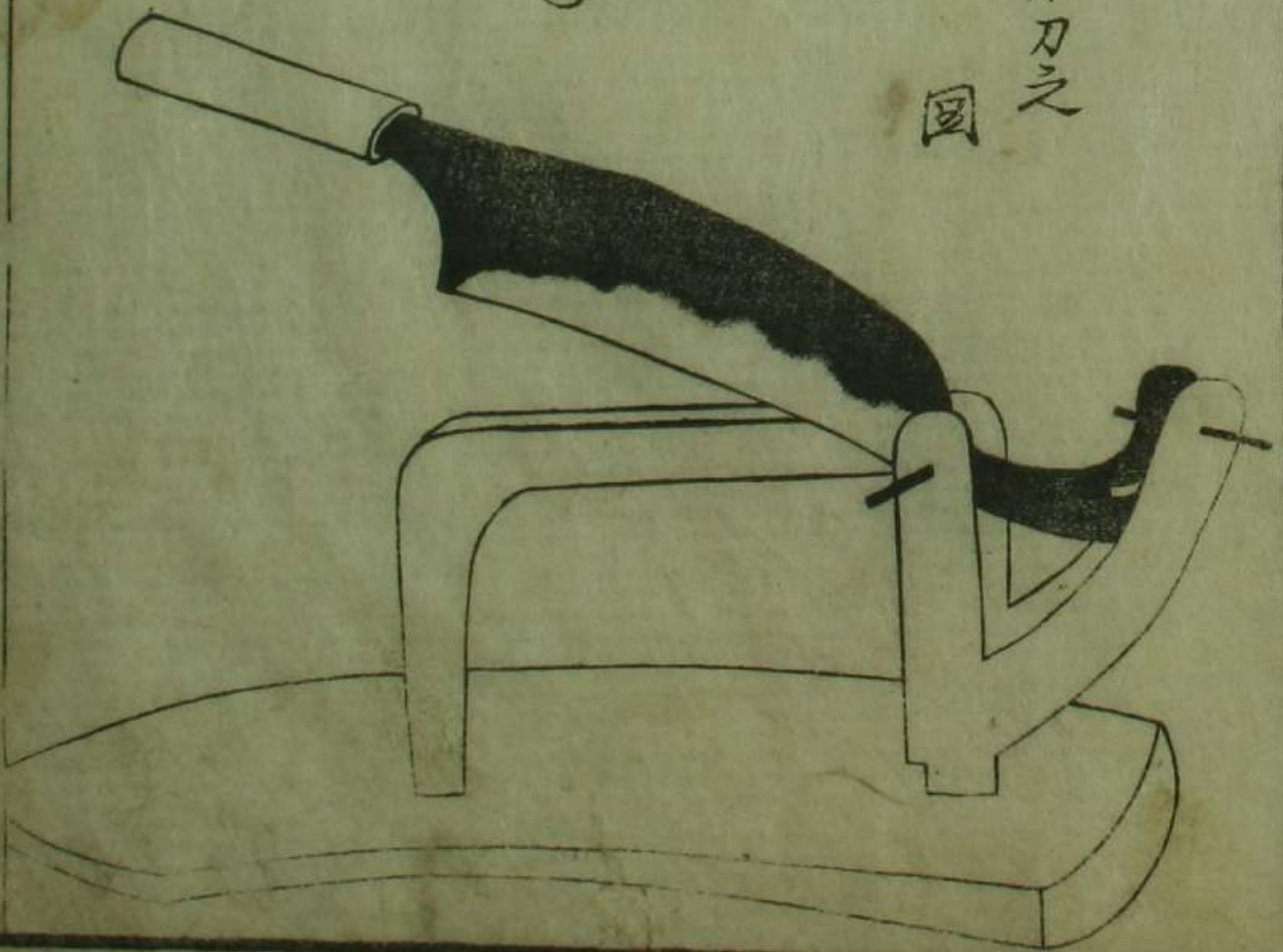
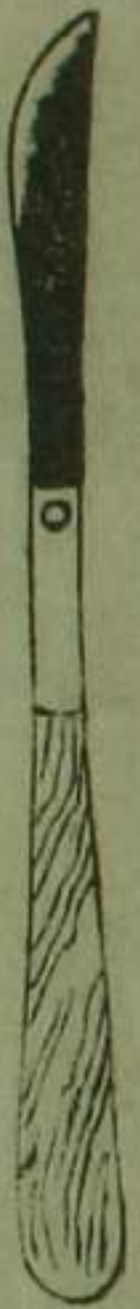


そりみきり



藥刀之圖

鼻毛剃



長崎聞見錄卷之三
終

西語

